

## 音楽、

オフロードバイク、  
スノーモビル、ジエ

ットスキー、ダイビング、釣り……私には趣味ごとに違う仲間がいます。ところが不思議なことに、その中にサラリーマンはほとんどいません。大半は小さな会社や店の経営者や大工など手に職を持っている人たちです。サラリーマンは日本の就業人口の7割を占めています。それに私は、特別にお金のかかるようなオフの過ごし方はしていません。にもかかわらず、サラリーマンを見かけないのです。

生、  
人楽と楽

たえばスノーモ  
ビルの仲間、たま  
ま信州の雪原を走

っている途中で出会った地元の愛好者たちです。彼らは物好きなことに、零下20度の吹雪の山奥で、20人ぐらいでバーベキューを楽しんでいました。その時、プラグが壊れて困っていた私は、彼らから予備のプラグを分けてもらいました。プラグは1個5000円ぐらいするので返さなきゃいけないと思っていたのですが、なにしろ広い山の中なので、その冬は巡り合



うことができませんでした。次の冬、ようやく彼らと再会し、お礼をしたのがきっかけで仲間に加わってもらうことになったのです。メンバーの職業は農業、猟師、駐車場経営、オートバイ修理などで、サラリーマンは一人もいません。

私が思うに、日本のサラリーマンは趣味のサークルのようなフラットな社会が苦手なのではないでしょうか。会社のように明確な上下関係があると上司の指示命令に従ってまとまりますが、上下関係がないと自分がリーダーシップをとってまとめることも、誰かのリーダーシップに従ってまとまることも難しい。みんながわがままを

好奇心と向上心を  
刺激するもの  
それは「異質」との  
出会いである

大前氏は前回、アクティブシニアが楽しくて充実したセカンドライフを送るために必要なマインドに「好奇心」と「向上心」を挙げた。しかし、会社人間だったサラリーマンがそのふたつをリタイア後も持ち続けるのは難しい。

言い始めて統制がとれなくなるケースが多いようです。しかも、すでに述べたように、サラリーマンは会社関係以外に友達のいない人が多いので、定年退職して何もしていないでいたら、友達はほとんど減ってしまいます。

でも、それでは好奇心や向上心は生まれず、老け込んでいくだけ。楽しくて充実したセカンドライフを送るために欠かせない好奇心や向上心の源となるのは「異質」との出会いです。自分とは異質な人、異質な文化、異質な環境と接することで好奇心が刺激され、向上心も生まれる。現に、私は全く畑違いの分野の仲間たちとの交流から

さまざまな刺激を受け、それまで経験したことのない新たな楽しみをたくさん見つけてきました。

だから、リタイアしてアクティブシニアになったなら、現役時代とは違う新しいコミュニティに入り、新しい人たちと知り合うべきだと思っております。そして、そのコミュニティの規模はできるだけ大きいほうがいいでしょう。

なぜなら、コミュニティの規模が大きければ大きいほど、多種多様なコミュニティ内コミュニティが誕生しやすく、自分と共通項のある人や同じ趣味の仲間、気の合う友人が見つかる確率が高まるからです。



## 大前 研一

1943年福岡県生まれ。

ビジネス・ブレークスルー代表取締役。

ビジネス・ブレークスルー大学院大学学長などを務める。

『心理経済学』（講談社）、『サラリーマン「再起動」マニュアル』（小学館）などの著書で一貫して日本の改革と日本人のスキルアップを訴え続けている。